

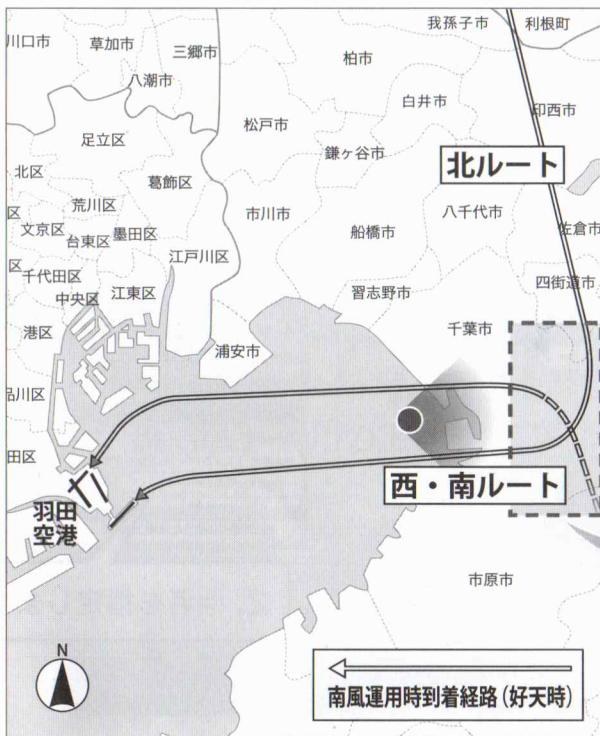


飛行経路の交差解消や、飛行高度の引き上げ、海上へのルート変更はできませんか？

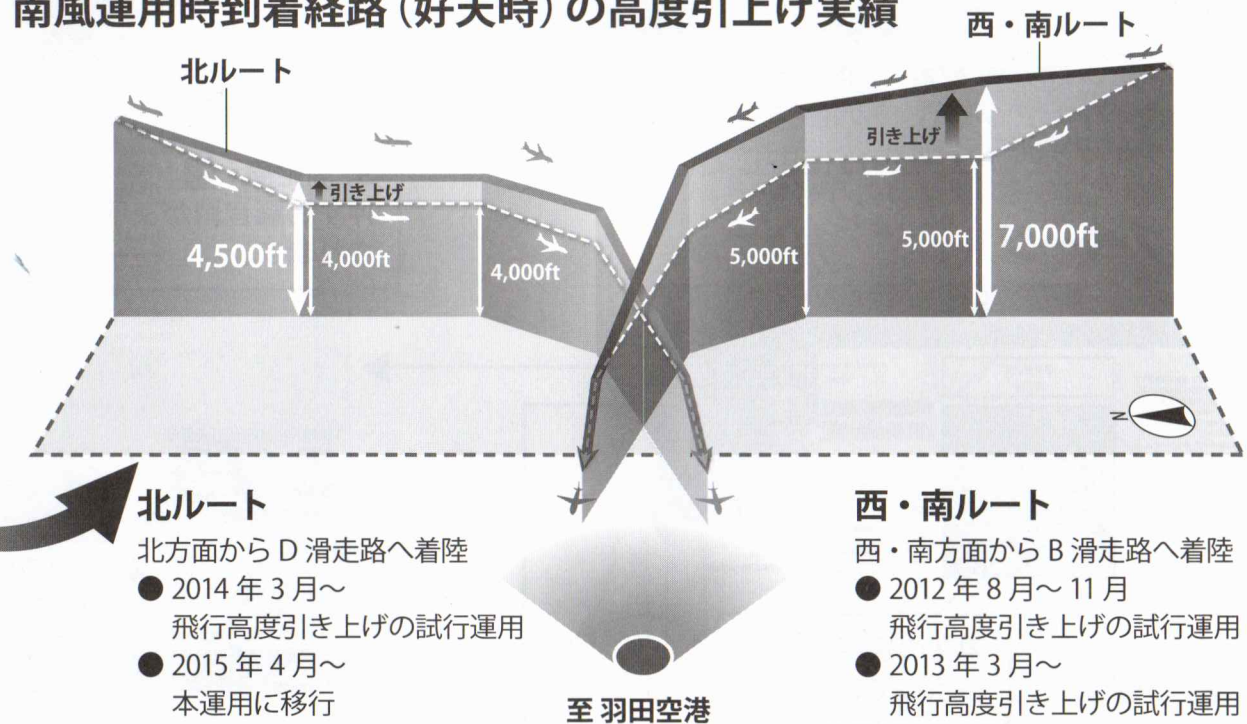
課題の解決策について検討を継続します。

検討を
継続します

これまでも、千葉県陸域の影響をできる限り軽減させるため、運用の工夫に努めてまいりました。2013年、2015年に南風運用時到着経路（好天時）の高度引き上げを実施しています。



南風運用時到着経路（好天時）の高度引き上げ実績



北ルート

- 北方面からD滑走路へ着陸
- 2014年3月～
飛行高度引き上げの試行運用
- 2015年4月～
本運用に移行

西・南ルート

- 西・南方面からB滑走路へ着陸
- 2012年8月～11月
飛行高度引き上げの試行運用
- 2013年3月～
飛行高度引き上げの試行運用
- 2013年11月～
本運用に移行

至羽田空港

行ルートにおける、降下角引上げによる飛行高度の更なる引上げについて、新飛行経路の運用状況を踏まえつつ、想定される様々な課題の解決策について検討を継続してまいります。

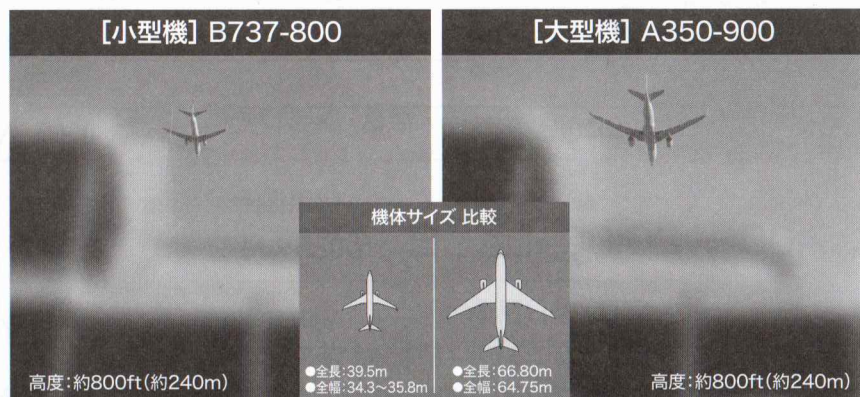
トピックス

1

飛行機の種類により 地上からの見え方が異なる 場合があります。

「いつもより低い高度を飛んでいた」等のお問い合わせをいただくことがあります。同じ航路、高度を飛行していても、機体の大きさの違いによって、いつもより低く飛んでいるように見える場合があります。

航空機の種類、飛行高度、航跡などについては「羽田空港飛行コースホームページ」にて、アクセス日の前日から1カ月前までの記録をご確認いただけます。



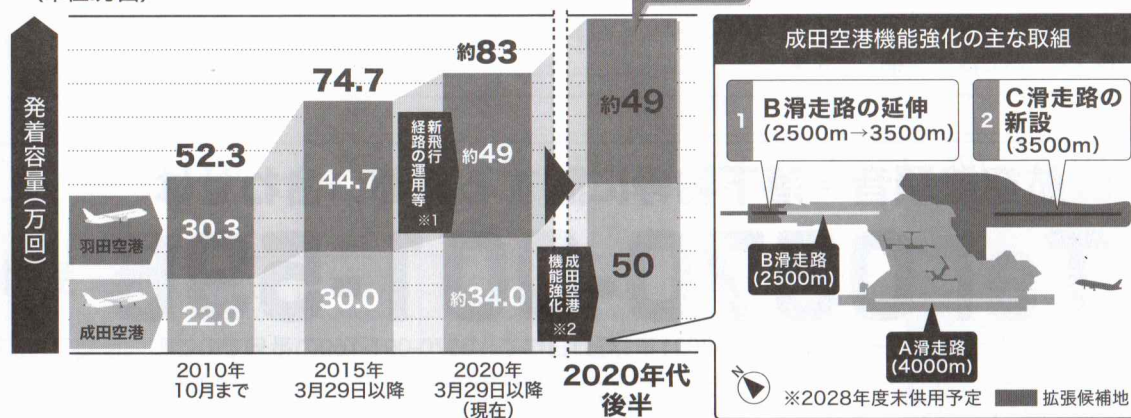
●機材の全長、全幅は航空機メーカーの公表資料による。高度は羽田空港飛行コースホームページによる。

2

羽田・成田の機能強化を 進めています。

我が国の国際競争力の強化などの観点から、首都圏空港（羽田・成田）の機能強化は必要不可欠です。両空港の機能強化により、2020年代後半までに首都圏空港の年間発着容量約100万回の実現を目指します。

●首都圏空港(羽田空港・成田空港)の年間発着容量の推移
(単位:万回)



※1 羽田空港の新飛行経路の運用等により国際線の年間発着容量を約4万回増加

※2 成田空港のB滑走路の延伸、C滑走路新設等により年間発着容量を約16万回増加



羽田空港に関わる取り組みについて本ニュースレターやホームページ、電話窓口などさまざまな方法で丁寧な情報提供を行っています。



東京国際空港を離着陸する航空機の飛行実態及び騒音状況の情報を公開しています。

羽田空港飛行コースホームページ

羽田空港飛行コースホームページ

検索

<https://www.ntrack.mlit.go.jp/NtrackTop/show>



東京国際（羽田）空港に離着陸する航空機に関する飛行コース及び航空局が首都圏に設置している騒音測定局の測定値について、アクセス日の前日から1カ月前までの記録をインターネット上で情報提供しています。

羽田空港を離着陸した航空機の航跡動画

1. 日時を指定します。

2. 地名を指定します。

3. 測定局(■)を押すと騒音値が表示されます。

4. 動画速度を変えたり、任意の時間にジャンプできます。

トップページ

現在の運用状況を表示しています。

対象範囲

羽田空港を離着陸した航空機の航跡図

騒音値

測定局

B737 3700

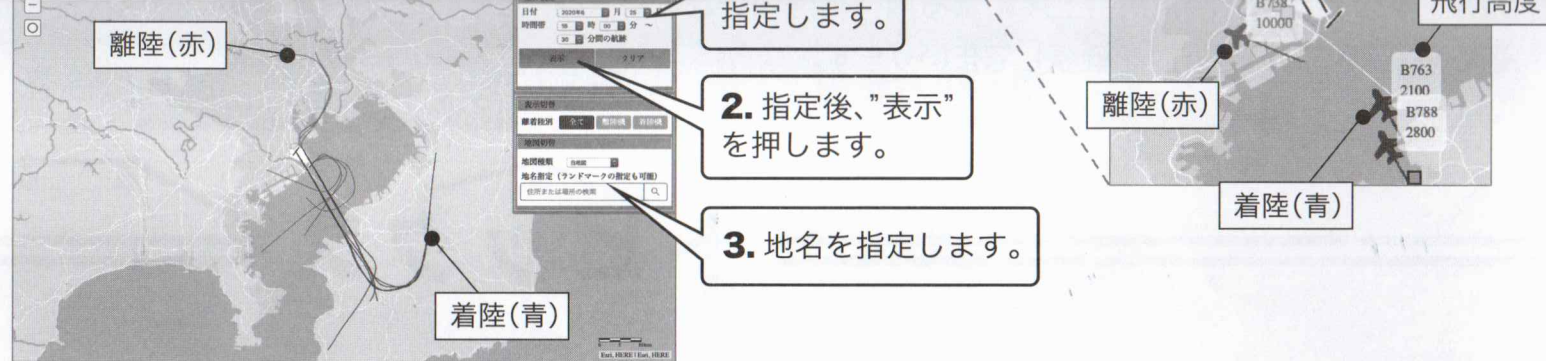
到着機

<出発機>

概ね10000フィート(3050m)以下

<到着機>

概ね6000フィート(1830m)以下

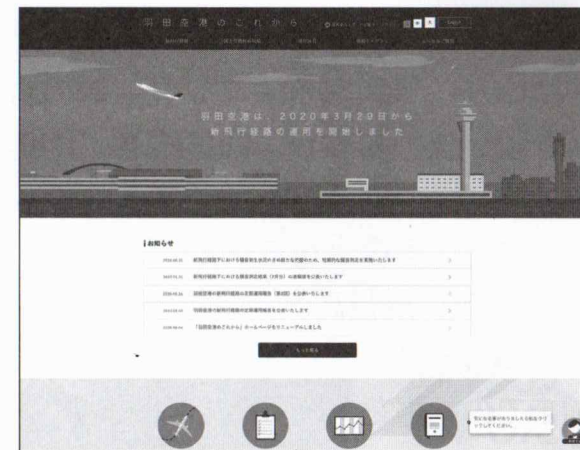


■ ホームページがリニューアルして、
情報がさらに充実しました。

<https://www.mlit.go.jp/koku/haneda/>

羽田空港のこれから

検索



本号でお知らせした内容をはじめとして、上記のホームページにて羽田空港に関する最新情報を掲載していますので、ぜひご活用ください。ご意見ご要望もこちらのホームページからメールフォームで直接投稿できます。

■ 航空機騒音・落下物等に関するお問い合わせは

Tel 0570-001-596

受付時間：7:00～20:00 [土・日・祝含む]

お問い合わせ番号の一本化に伴い、2021年1月31日にて、0570-001-160の番号でのご案内は終了しました。

編集：国土交通省航空局（「羽田空港のこれから」ニュースレター編集会議） 〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3